台風や集中豪雨が原因となって起きる災害

台風や集中豪雨が原因となって、様々な災害が発生します。河川が増水したり、堤防が決壊したりして、洪水の起きる危険があります。
また、大量の雨が短時間に降ることで、がけ崩れや土石流などの土砂災害が起きる危険もあります。
ここでは、台風や集中豪雨が原因となって発生する災害について、それぞれの内容や心得をまとめました。

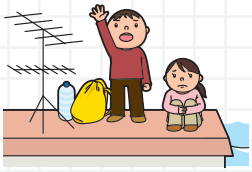
水害

水害とはどのような災害か

一般には堤防の決壊や、河川の水が堤防を越えて起きる氾濫を洪水害と呼び、大雨などによって、河川の流量が異常に増加して発生します。外水氾濫ともいいます。

愛知県は、木曽川・庄内川・矢作川・豊川などの大河川が多く、国内最大の海抜ゼロメートル地帯を有するため、洪水の浸水想定区域は県土の約2割に及びます。短時間の激しい雨、極端な大雨の頻発化や台風の大型化などによって、これまで経験したことのない豪雨が毎年のように日本各地で発生しており、水害リスクが高まっています。

また近年では、降雨をスムーズに排水できずに起きる内水氾濫も発生しています。特に都市部では、下水道などの処理が追いつかずに水があふれる都市型水害の危険性が指摘されています。



都市型水害はなぜ起きるか

昔、雨水は地下へのしみ込みが多く、田などに一時的にたまり、ゆっくり川に流れていきました。しかし現代は地表がアスファルトでおおわれ、雨水も下水道によって処理されています。

都市が集中豪雨に見舞われると、下水道施設の能力を上回る大量の雨水が短時間に流入し、市街地にあふれて洪水が起きるようになりました。特に、地下街や地下室などの浸水に注意する必要があります。

水害に対する心得

洪水の時は地下室・地下街からすぐに避難しましょう

・停電すると電灯が消え、エレベータも止まってしまいます。
・水圧でドアが開かなくなることもあります。
・地下街では防火扉が停電により自動的に閉まってしまう場合もあります。

事前に防水板や土のうなどを用意しておきましょう

・土のうなどで水をせき止めるのは有効です。初期の段階なら、二重にしたゴミ袋に半分程度水を入れた臨時の水のうなどによる応急処置も効果があります。

ハザードマップで防災情報を確認しておきましょう

・市町村では、大雨による洪水が発生した場合の浸水想定区域や、浸水の深さなどを表示した洪水ハザードマップを作成しています。
ハザードマップで普段自分がいる場所の危険度や避難場所、安全な避難経路を確認しておきましょう。水害から非難する際は、アンダーパスなどの浸水しやすい危険な場所には近づかないようにしましょう。

危険な場所からは早めに避難しましょう

・気象庁が発表する防災気象情報や市町村が発令する避難情報を確認しましょう。避難情報の発令前でも、レベル3大雨（又は氾濫）警報やレベル4大雨（又は氾濫）危険警報が気象庁から発表されたら、危険な場所からは早めに避難しましょう。

「ハザードマップ」で地域の災害の危険性を確認しておきましょう

■ 国土交通省ハザードマップポータルサイト

https://disaportal.gsi.go.jp/



高潮災害

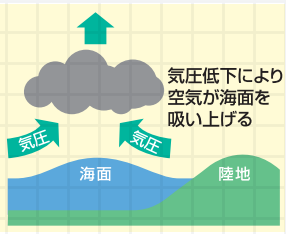
高潮災害とはどのような災害か

高潮災害は、台風の接近に伴って発生することが多く、海面が異常に上昇して起きる災害です。

特に海岸に近いゼロメートル地帯などは、高潮による浸水被害を被る危険性が高く、中が必要です。

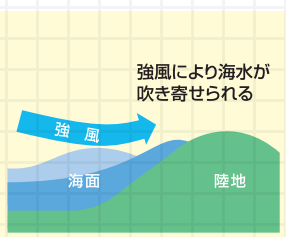
気圧低下による吸い上げ効果

台風は中心気圧が低いため、その部分の空気が海面を吸い上げるように作用し、海面が上昇します。（気圧が1hPa低くなると→海面は約1cm上昇）



風による吹き寄せ効果

台風による強風が沖から海岸に向かって吹くと、海水が海岸に引き寄せられて海面が上昇します。



高潮災害に対する心得

ハザードマップで防災情報を確認しておきましょう

・市町村では、高潮災害が発生した場合の浸水想定区域などを表示した高潮ハザードマップを作成しています。ハザードマップで普段自分がいる場所の危険度や避難場所、安全な避難経路を確認しておきましょう。

危険な場所からは早めに避難しましょう

・気象庁が発表する防災気象情報や市町村が発令する避難情報を確認しましょう。避難情報の発令前でも、レベル3高潮警報やレベル4高潮危険警報が気象庁から発表されたら、危険な場所からは早めに避難しましょう。